

SPIRAL REPORT

スパイラルレポート



2015コープしが 社会・環境報告書

未来の環境を考え、ともに育てる…



新コープゼゼ店は、LED照明やセラミックタイルの床、最新の省エネ対応のショーケース（リーチイン）、空調設備などを導入し、環境にも配慮した店舗です。

CONTENTS

- 環境編 P. 3
- 食品編 P.11
- 組合員活動編 P.15
- 理念・運営体制編 P.19
- 職場づくり編 P.23
- コープしがの事業編 P.25



スパイラルレポート 2015 の発行にあたって



協同組合の役割を自覚し、事業や活動を通して地域社会に貢献します。

日頃より、コープしがの事業と活動を支えていただき誠にありがとうございます。

2014年度、消費税増税の影響を心配しましたが、事業と活動は大きく前進しました。宅配事業の利用がひろがり、2020年ビジョンに沿って、あたらしくケアサポートセンターばこを開設し、介護保険事業に踏み出しました。さらに、地域や近隣生協のご支援のもと2015年2月27日にコープゼゼ店をグランドオープンさせることができました。フレッシュで明るく、品ぞろえの充実した店舗に生まれ変わり、組合員の利用も順調に推移しています。まだまだ課題はありますが、振り返りながら改善をし続けて、組合員へのさらなるお役立ちを実現します。

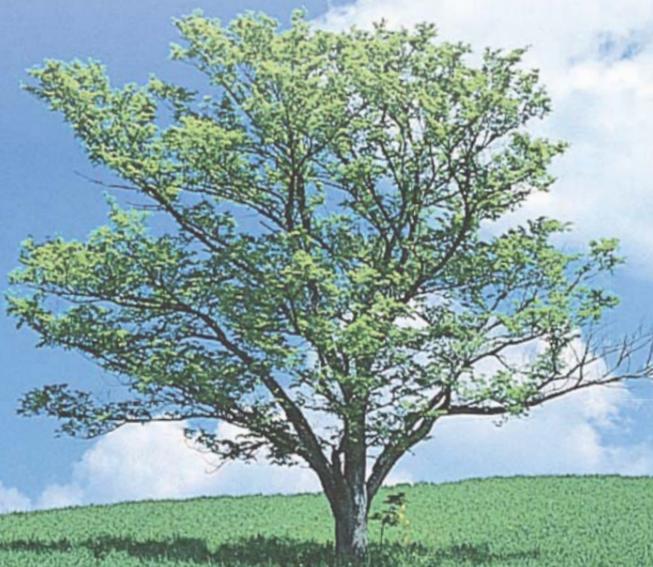
「協同組合とは、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的なニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。」これが協同組合の定義です。私たちの役割を端的に表しています。誰からも強制されることなく、自分の意思で主体的に参加をして、共通の願いをかなえることを目的としているので、強い組織になり、地域社会に良い影響を及ぼし続けます。

少子高齢化の進行とともに、単身世帯が増え、絆やつながりが薄れていきます。協同組合としての役割を自覚し、多くの県民の願いと想いを集めて、全県下に協同の事業と活動をさらに広めて参ります。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

2015年6月

生活協同組合コープしが
理事長 西山 実





コープの森づくり



余呉での整備道敷設工事



あぶらひでの間伐作業

コープの森づくりとは

2012年8月から取り組んだ「コープの森づくり」は3年目を迎え、コープの森余呉とコープの森あぶらひでの森林整備が本格化しました。

余呉では、杉の人工林に整備道が敷設され、効率的で継続的な間伐や木材の搬出が可能になりました。あぶらひでは、ひのき林15haの間伐・枝打ちが施工され、さらに、一昨年の台風で損壊した林道が復旧されました。コープしがは、これらの作業に要した費用の一部を協定に基づき負担しました。

今後も、森林の所有者、当該地域の行政・森林組合の方々と協議しながら、それぞれの森に効果がある森林整備を続けていきます。

琵琶湖森林づくりパートナー協定とは

滋賀県が、森林所有者と企業との協働によって滋賀の森林づくりを進めるために設けた制度です。企業は森林づくりの費用や労力を提供し、森林所有者は企業に環境活動のフィールドを提供したり、森林整備を実施することになっています。協定では、企業の負担する金額と期間、諸権利の帰属、森林の名称等を決めます。

協定のコーディネートは滋賀県が担い、協定には滋賀県知事と当該行政の首長が立ち会います。余呉では、滋賀県知事と長浜市長に、あぶらひでは滋賀県知事と甲賀市長に立ち会っていただきました。



コープの森余呉 調印式 (2012/8/29)



コープの森あぶらひ 調印式 (2013/10/29)



コープの森 余呉

長浜市

甲賀市

コープの森 あぶらひ

森林整備ボランティア・森林学習会

コープの森での役職員によるボランティア活動は、余呉では3年目を迎え、あぶらひでは初めての取り組みとなりました。余呉での作業は整備歩道づくりで、3日間延べ94人の参加で約200mの歩道を完成させました。あぶらひでは、生産森林組合の枝打ち・間伐作業に参加し、3日間延べ46人が汗を流しました。

組合員の間伐体験や現地での森林学習会にも取り組みました。あぶらひの生産森林組合は、毎年、地元の小学生が取り組む「やまの子教室」を指導されています。コープしがの組合員もやまの子と同じ内容の作業を行い、ヒノキの香りを満喫し、丸太のお土産に大喜びでした。



あぶらひの枝打ちロボット

余呉での作業道づくり



あぶらひ森林学習会



あぶらひ森林作業体験

資料

「コープの森余呉」と「コープの森あぶらひ」の概要

	コープの森 余呉	コープの森 あぶらひ
所在地	長浜市余呉町中之郷	甲賀市甲賀町油日
森林所有者	中之郷生産森林組合	油日・上野共有生産森林組合
協定締結日	2012年8月29日	2013年10月29日
協定面積	72.4ha	118.7ha
協定期間	7年間	10年間
森林づくり費用総額	700万円	1000万円
ボランティア活動 (企画回数、参加人数)	2012年度 1回 54名 2013年度 1回 38名 2014年度 3回 94名	2014年度 3回 46名
説明	余呉町中之郷地区では、古くから薪炭の生産が行われてきました。最盛期には北陸線の停車場があり、ここから薪炭を全国に出荷していました。しかし、化石燃料への転換が進み、やがて薪炭の生産は完全に終了してしまいました。余呉の森は、ナラやコナラなどの自然林と戦後に植えられた杉の人工林が混在しています。森林づくりの計画では、整備林道を敷設し、人工林と自然林の間伐などの整備を進める予定になっています。	古代から、甲賀地域は東大寺などの建築材料の供給地(杣:そま)でした。近代は、銘木「甲賀ヒノキ」の産地として有名で、美しい桧の人工林が広がっています。国産材の販売不振により、林業は衰退しましたが、今なお、桧の美林を維持する活動が続けられています。森林づくりの計画では、間伐と枝打ち、さらに桧の植林や獣害対策も実施していく予定です。生産森林組合が独自に行っている整備活動も支援していきます。



2014年度環境活動と実績

1. エネルギー資源の効率的な使用と温暖化効果ガスの削減

(1) エネルギーの効率的な使用

2014年度の環境目標では、電気使用量を前年から15%以上削減することでしたが、店舗の長期休業もあって使用実績は215万kwhになり、前年から26%削減できました。

この間進めてきた軽油に替わるBDF100の使用は、エンジントラブルの発生・新型車への導入が困難などの理由で、2014年11月に中止しました。環境負荷軽減効果は小さくなりますが、BDF5の使用を増やしました。

※BDFは、廃食油を原料とするディーゼルエンジン用の燃料です。100%BDFの燃料をBDF100と呼び、軽油にBDFを5%添加したものをBDF5と呼びます。

●電気使用量推移

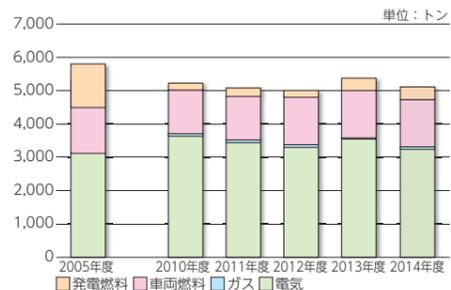


(2) 温暖化効果ガスの削減

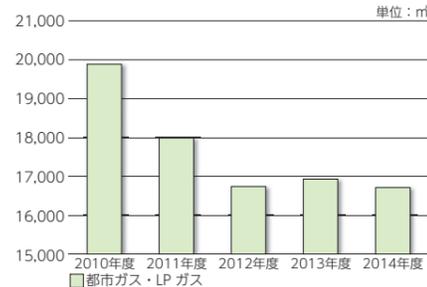
環境政策では、2005年の温暖化効果ガス排出量を2020年には20%削減すること目標にしています。電気使用量の大幅な削減により、2014年度の排出量は5,070トンで、2005年度実績から13%削減することができました。

エネルギー以外の排出源であるドライアイスやフロンも管理しています。

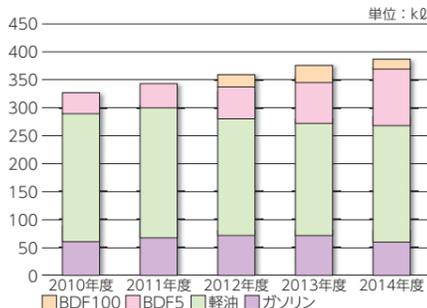
●温暖化効果ガス排出量推移 (発生源別)



●ガス使用量推移



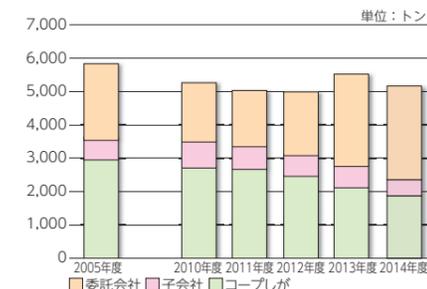
●車両燃料使用量推移



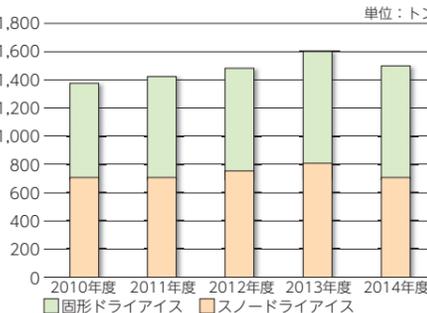
●使用燃料別配達車両数推移 (ディーゼル車)



●温暖化効果ガス排出量推移 (組織別)



●ドライアイス使用量推移



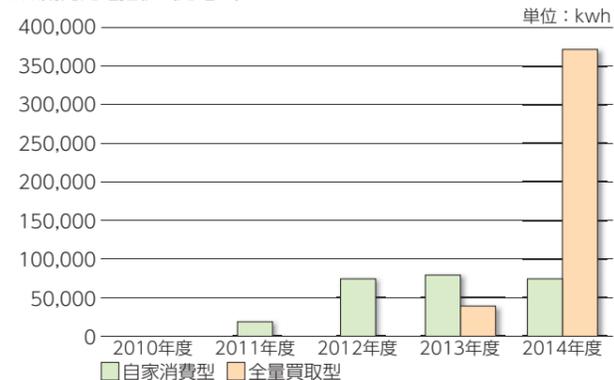
(3) 再生可能エネルギーの活用

2014年度の環境目標では、コープしがの太陽光発電容量を500kw以上にすることでしたが、9月に東近江センターで固定価格買取制度による発電所を稼働させ、総発電容量は516kwになりました。

組合員向けの太陽光発電の斡旋事業にも取り組んでいますが、買取価格や買取制度の見直し論議の影響で、今年の成約件数は11件に留まりました。

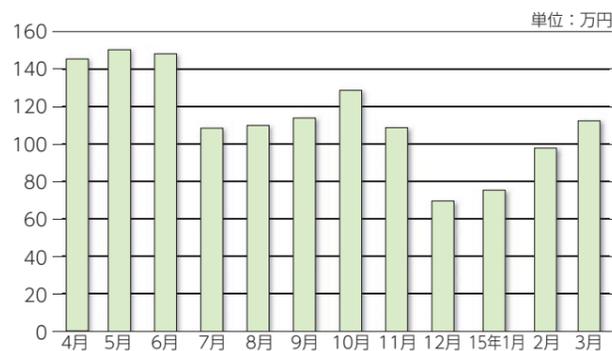
2014年度の総売電収入は、1,374万円でした。

●太陽光発電推移 (発電量)



東近江センター (2014/9/26 稼働)

●月別売電額推移



●全量買取型

設置事務所	メーカー	発電容量	稼働日
草津センター	シャープ製	118.6kw	2013年11月
北大津センター	パナソニック製	99.8kw	2014年2月
南草津センター	京セラ製	108.4kw	2014年3月
東近江センター	パナソニック製	119.3kw	2014年9月

●自家消費型

設置事務所	メーカー	発電容量	稼働日
南草津センター	京セラ製	10.0kw	2011年9月
中央大津センター	パナソニック製	10.0kw	2011年9月
草津センター	京セラ製	10.0kw	2011年10月
本部	京セラ製	20.0kw	2011年10月
甲南センター	カネカ製	10.0kw	2012年7月
彦根センター	京セラ製	10.0kw	2012年7月



2. 廃棄物の削減とリサイクル

(1) 廃棄物の削減

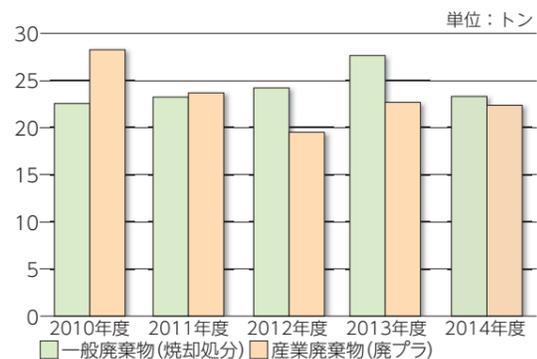
コープしがでは、一般廃棄物は食品廃棄物とそれ以外に分別し、食品廃棄物は飼料に再生しています。産業廃棄物は大半が廃プラ類になりますが、減容加工することで有価販売できるモノは分別し、残りを処理業者がRPF（固形燃料）に加工します。再生利用できていない廃棄物は、「食品廃棄物以外の一般廃棄物」になり焼却処分します。

(2) 食品リサイクルと容器包装リサイクル

食品廃棄物は、排出量の45%以上を再生することが法律で義務付けられています。また、排出の抑制では売上百万円あたり65.6kgまでという努力目標が設定されています。2014年度はコープぜげの長期休業もあり排出量は前年から8%減少し、再生率は99.5%、売上百万円あたりの排出量は39.3kgでした。

容器包装リサイクル法では、店舗での加工や青果産直センターの小分けで使用する包装資材、配達に使用する仕分け袋、PB商品の包材などが対象になります。売上高を基準に算出した係数を毎年低減することが求められており、包材の使用量に応じたりサイクル委託費用の負担も必要になります。2014年度は店舗での商品加工が大幅に増えたため、使用量は前年度から9.0%以上増加しました。

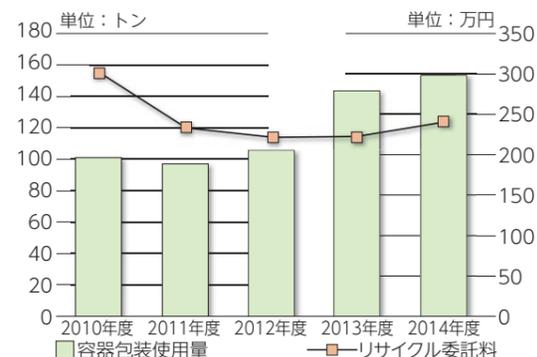
●廃棄物排出量推移（一般廃棄物・産業廃棄物）



●食品廃棄物排出量・再生率推移



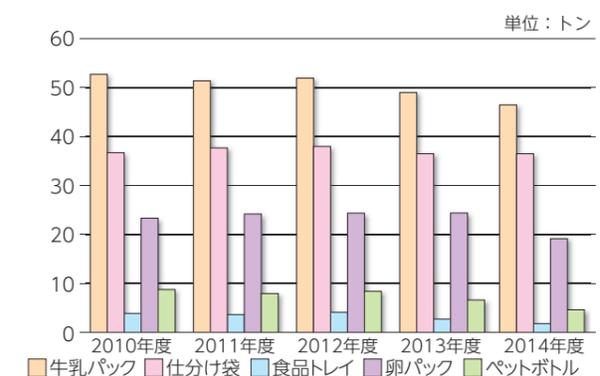
●容器包装リサイクル推移



(3) リサイクル活動

2014年度の環境目標では、リサイクル拠点を整備し回収量の前年5%増を目指しましたが、3.5%増に留まりました。仕分け袋は、回収量、回収率ともに前年を下回りました。回収量が増加した商品案内書も、回収率は前年より下がっています。なお、商品案内書などの組合員への年間配布量は4,874トンになりました。

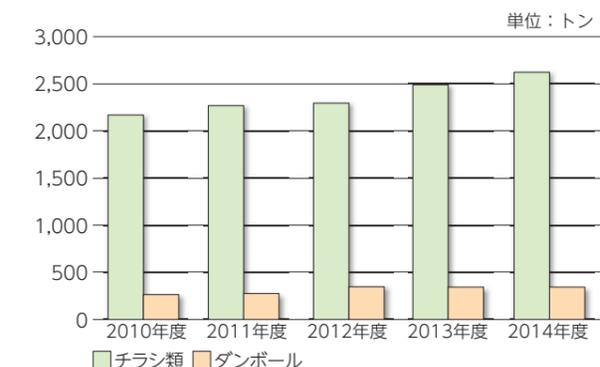
●リサイクル品回収実績推移



(4) リサイクル事業

ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレン等のプラスチック類の販売量は前年から9.4%減少しましたが、最もウエイトが高いチラシ類の販売量が4.7%伸びたため、販売総額は4285万円（2.7%伸長）になりました。リサイクルセンターの作業ボリュームも増え、経営基盤も整備できたため、2015年度から障がい者の雇用を1名増やします。

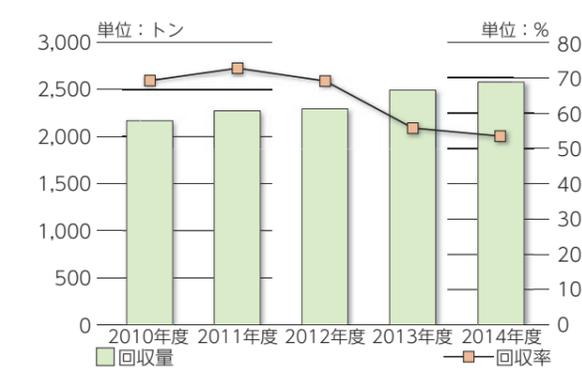
●古紙販売量推移



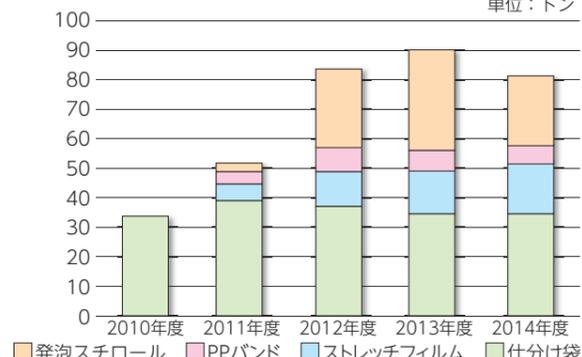
●仕分け袋回収量と回収率推移



●商品案内書等回収量と回収率推移



●廃プラスチック有価販売量推移



●有価販売高推移





3. コープしがの事業所での環境活動

(1) エコドライブ

50%以上の役職員が、エコドライブ教育を受けるよう職場でのエコドライブ講習会を実施しました。地域でのエコドライブ講習等への参加もあわせると66.7%の役職員が教育を受けることができました。

(2) ノーマイカーデー

宅配事業センター以外の全ての事業所で、マイカー通勤者を対象に月1回以上のノーマイカーデーにチャレンジしました。ノーマイカーデー宣言をした職員は、対象者の73.6%の103人でした。実施率は、最も高かった7月でも48.0%に留まりました。

(3) グリーン購入

グリーン購入対象商品を優先的に購入する活動は、事務用紙と事務用品に区分して管理しています。事務用紙は、グリーン購入対象紙の使用が定着し、購入率は99.5%（重量比）になっています。事務用品の購入率は58.1%（点数比）でした。

(4) 本部別棟での緑化活動

本部別棟にある野洲ステーションの玄関脇にゴーヤのグリーンカーテンを設置しました。冬場は花壇に転用し、冬の草花を植えました。ペットボトルのキャップを原料とするプランターを使用し、リサイクルの呼びかけも行いました。

4. 県内商品の取扱

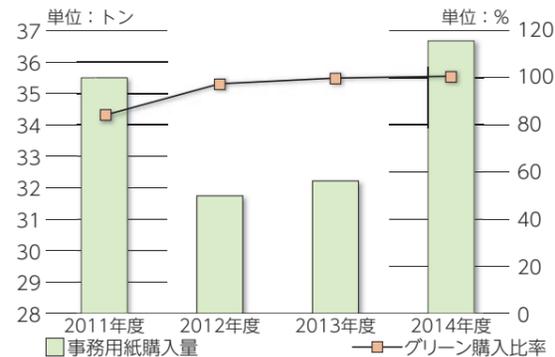
(1) 宅配事業での県内商品の企画

2014年度の環境目標では、コープしが独自企画である「ぱくぱくエコー」で県内商品の企画点数を5%増やすことを計画しました。対象となる商品は、県内生産品・県内生産原料を使用した商品とし、年間で20.3%増の2,289企画することができました。

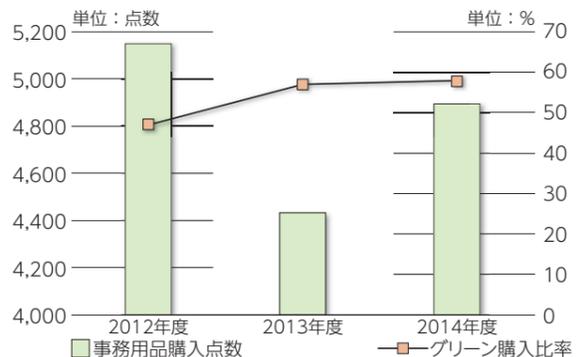
(2) 店舗での県内農産物の仕入

コープぜぜで4月～10月で1,728万円以上の県内農産物を仕入ることを計画しましたが、計画比96.5%の1,667万円に留まりました。

●事務用紙購入量・グリーン購入率推移



●事務用品購入点数・グリーン購入率推移



資料



このプランターは、エコプランターです。

これは、ペットボトルのキャップを再生して製造したプランターです。原材料の70%以上は、ペットボトルのキャップ等の再生PPが使われています。再生品だけでは強度が維持できないため、工場で製造したPPを約30%混ぜて使用しています。※PP=ポリプロピレン

コープしがで回収したペットボトルキャップは、共同作業所で分別・洗浄し、甲賀市にあるこのプランターの製造会社に原料として販売されています。その収益は、共同作業所の運営資金の一部になっています。

コープしがでは、コープぜぜ、宅配事業センターステーション、旧ミニコープのステーションでペットボトルキャップを回収しています。

組合員の環境活動

コープしがでは「琵琶湖を大切にすること」を育むため、毎年9月の第1土曜日を「コープしがびわ湖の日」として「湖岸清掃ウォーク」に取り組んでいます。2014年度は約400名の参加で、長浜ドームを出発して琵琶湖岸沿い約6kmの清掃を実施しました。

各地区でも、コープしがびわ湖の日に合わせて、「水の一生を学んでみよう・草津市北山田浄水場と湖南中部浄化センター見学」「近江八幡市宮ヶ浜地引き網体験とニゴロブナの放流」「琵琶湖へGO・長浜市尾上漁港から水上タクシーに乗って」などが行われ、大切な琵琶湖を守るために私たちのできることについて考える機会となりました。

また、地域委員会でも環境に関する様々な組合員活動が行われました。



湖岸清掃ウォーク



湖岸清掃ウォーク



浄水場見学



琵琶湖へGO



宮ヶ浜地引き網



魚&洗剤学習会



エネルギー学習会

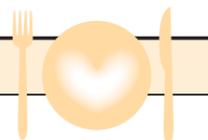
商品利用で「マザーレイク滋賀応援基金」に寄付を行いました

コープしがでは、商品の利用を通して琵琶湖の保全につながる取り組みを行っています。産直米登録利用と、COOP洗剤の利用に合わせて「マザーレイク滋賀応援基金」に寄付を行い、琵琶湖の保全に活用されています。2014年度は次の金額を寄付しました。

商 品	利用量	寄付金額
産直米利用登録	289,264kg	289,264 円
COOP 洗剤	50,776 点	50,776 円
合 計		340,040 円

レジ袋の削減運動に取り組んでいます

コープしがでは以前からレジ袋の有料化を行っており、お買い物袋の持参を呼び掛け、CO2削減の取り組みを行っています。2014年度のお買い物袋持参率は、95%を超えています。



～安心してご利用いただくために～

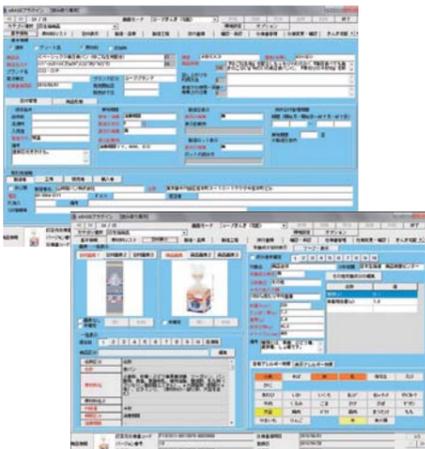
食の安心をめざして、 食品安全・品質保証の取り組み

コープしがでは、食品の安全を保証するため、原材料から製造工場・店舗、組合員への配達の各段階で、商品のチェックを何重にも行っています。

1. 安全な商品をお届けするために

(1) 商品仕様書の点検

「商品仕様書」とは、商品がどのようにして製造されているかのカルテの役割を果たしています。生協の商品一つひとつについて、原材料や製造工程、包材表示など詳細に記録したものです。法律に定められた表示やコープしがの取り扱い基準を満たしているか念入りに確認しています。



商品仕様書の点検 (パソコン画面)

(2) 取引先の点検

加工食品を製造する工場は、衛生面や安全面で厳しい管理が求められます。取引先の食品工場に出向き、工場従業員の身支度や製造環境、加熱・冷却温度等の確認を行っています。

農・畜産産地も訪問し、栽培・飼育環境や管理状況の確認を行っています。点検の目的は指導ではありません。取引先と問題点を確認し、実現可能な範囲で改善を協力して進めています。



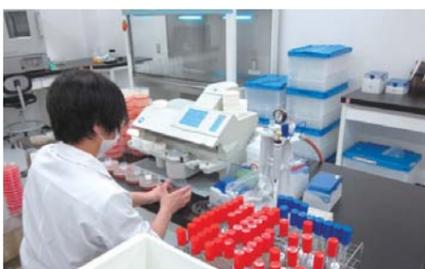
圃場点検

取引先	点検数
水産・畜産加工メーカー	22
日配・牛乳	22
パン・菓子メーカー	10
一般食品メーカー	11
産直農産産地・農家	16
産直畜産農家	16



(3) 商品検査

商品の品質と安全性の確認・検証を科学的・客観的に把握する目的で検査を行っています。商品の仕様・特性に応じて微生物検査や農薬検査、放射性物質検査などを実施しています。検査結果に問題があった場合は、調査・是正を要請し、商品の改善に役立てています。



微生物検査



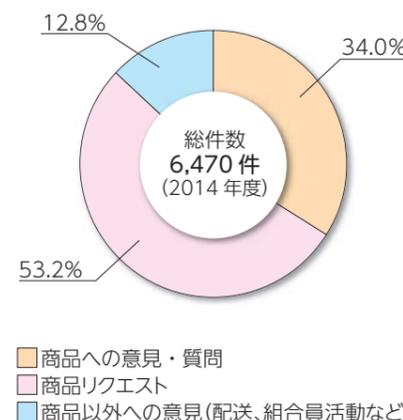
農薬検査

	検査項目	件数	
		コープしが	きんき
新規検査	微生物	62	6,501
	食品添加物	-	839
流通品検査	微生物	466	8,178
	残留農薬	312	-
	残留農薬	-	53
事前検査	産直野菜・果物	-	912
	動物用医薬品	18	-
	遺伝子組換え	4	-
	カドミウム	9	-
	放射性物質	-	314

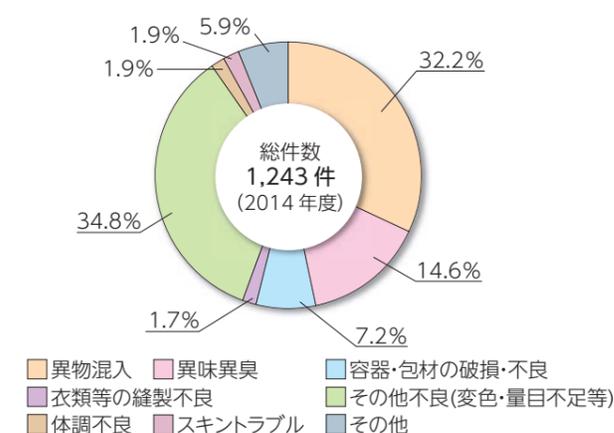
2. 「組合員の声」および「商品お申し出」について

お届けした商品についてのご意見や苦情は、品質の不具合を改善し、よりよい商品の提供へつなげていきます。また、コミュニケーション委員会でも、商品以外の声への対応も含めて検討を行っています。

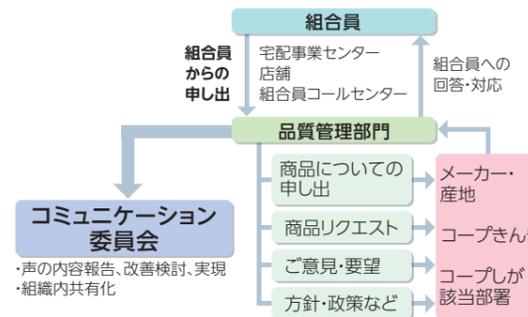
〈私もひとことカード〉に寄せられた組合員の声



〈商品相談連絡書〉でのお申し出(商品苦情)



■ 組合員の声の事業活動へ反映

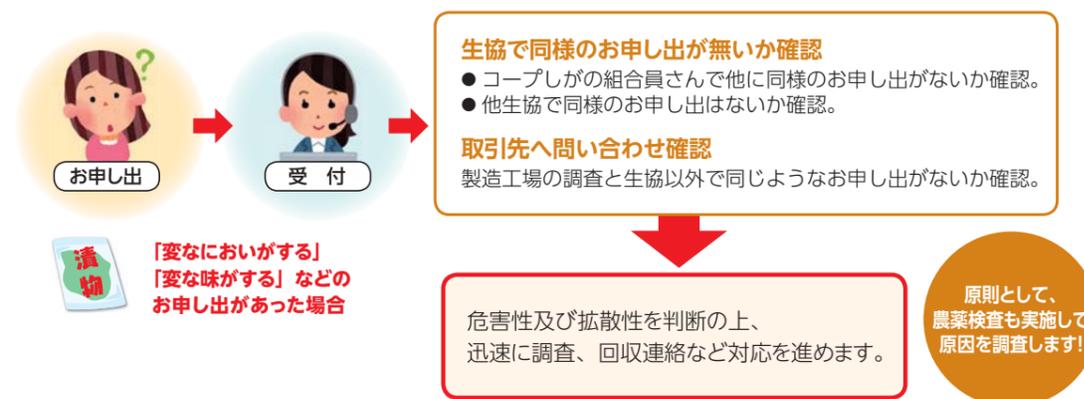


■ 組合員の声を受けて商品改善事例



3. 予兆監視及び商品事故管理体制

組合員コールセンター等に寄せられる声や、他生協の事例などから、同様の申し出がないか監視して、商品事故の拡大防止や迅速な回収などを行なう体制をとっています。



(株)アクリフーズ冷凍食品の農薬混入事件を受けて、生協では危機管理対応を強化しています。

環境編

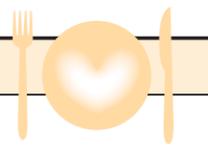
食品編

組合員活動編

理念・運営体制編

職場づくり編

コープしがの事業編



産直・地産地消・ 県内農業の発展に向けた取り組み



産地見学・有田コープファーム



商品大交流会



店舗の県内農産品売場

2014 オリジナルクリスマスケーキ
「商品名: Happy♡リボン」

1. 産直・地産地消の推進

(1) 産直（産地直結）

コープしがは「産直」により、生産者・消費者がともに生産と消費の知識と理解を深め、暮らしに欠かせない“たべもの”の「安全・安心」「よりよい品質」「適正価格」での「安定供給」を目指しています。組合員の産地見学会や商品大交流会などを開催して、生産者と消費者（組合員）の交流をすすめています。

2014年度産直の実績（宅配事業）

項目	2013年度	2014年度
産直生産者数	63	63
延べ企画回数	4,539	4,097
供給高(千円)	1,890,998	1,800,697

(2) 地産地消

県内産の農畜産物や県内産原料使用商品、県内製造商品の取り扱いを拡大することで、地域振興や社会貢献につなげたいと考えています。そのため、商品案内書「ぱくぱくエコー」で県内商品を積極的に取り扱い、店舗でも地場野菜コーナーを設けています。

(3) 組合員による商品活動

2014年度は、組合員が参加した商品委員会を2つ設置して県内商品の取り扱い検討や普及などの活動を行いました。

< 商品開発検討委員会 >

商品開発検討委員会は、1) 産直商品を使った商品を開発し普及すること、2) 県内産商品の開発・新規取り扱いをすすめることに取り組み地産地消の推進につなげました。産直商品と県内産の原料を使用した商品の開発（2品目）を行い、産直商品（原料）の普及と地産地消を推進しました。

2014年度開発商品

近江米と 広東バナナの コラボマフィン

滋賀県産の米粉と無農薬栽培の広東バナナを使ったずっしりしたマフィンです。



近江牛牛すじまん

高島市、宝牧場の近江牛牛すじを醤油ベースのたれでじっくり煮込み、もちもち食感の皮で包みました。



< 産直商品普及委員会 >

産直商品普及委員会は、1) 産直商品を知り、産直生産者と交流することで産直の普及につなげること、2) 「オリジナルクリスマスケーキ・おせち」の検討、3) 開発商品を広く組合員にお知らせすることに取り組みました。各エリアでの産直交流の企画、「オリジナルクリスマスケーキ」「オリジナルおせち」の検討と普及を行いました。

2. 生産者と手をつないで 食の安全・安心と 安定をめざします

(1) 地元 JA との共同の取り組み

滋賀県は稲作を中心とした農産物の生産県で、食料自給率（カロリーベース）は約50%です。コープしがでは持続可能な安定供給をめざし、地産地消・産直提携の強化をすすめています。

また、地元のJAと「地場産提携に関する協同組合間協定の協定」を結び、地元農産物の利用拡大や、組合員による農作業体験（さつまいもの植え付け～収穫）を実施し、生産者と消費者の交流を深めると共に、農業の厳しさや地産地消の大切さを学ぶ機会を提供しました。

(2) 『地産地消推進協議会』及び 『飼料米利活用推進協議会』の取り組み

両協議会では、県内の主要な生産者・JAや生協を中心に、行政にもオブザーバー参加していただき地産地消の推進を行ってまいりました。お米や県内農産物の利用推進、県内特産品の掘り起こし活動をすすめると共に、エサも地産地消として県内の飼料用米の活用をすすめ、循環型農業・環境保全に努めています。

2014年度産飼料用米319トン（前年度281トン）を、「産直こめ育ちさくらたまご」の親鶏のエサに12%配合（粳米）し、飼料用米で育った卵づくりをすすめて地元農業を応援しています。

また、毎年食と農を考える学習会を開催し、食料自給率や農業の現状を学び地産地消の大切さを訴えてまいりました。2014年度の食と農を考えるフォーラムでは、「ないものねだりよりあるものさがし、地元を知ろう!」をテーマに講演会を開催し、食について、身近な資源を見直すことで、日本の農業の現状を学び、食とは何かを改めて考える機会となり、次世代に食を繋いでいくことの大切さを学びました。



食と農を考えるフォーラム（講演会）



さつまいもの畝作りと苗の植え付け体験



さつまいもの収穫を体験



県内水田で飼料用米を栽培



産直こめ育ちさくらたまご



フォーラムで地産地消商品の紹介・試食会



様々な世代や多様なライフスタイルに応じた活動ステージ



産直ミニ懇談会



「おとなの女性のための食育学習会&迎春試食会」



チーム活動 くすくすっ 幼稚園で紙芝居



ひろば活動 こうまのさんぽ

1. 食・商品・食育に関する活動

食の大切活動として「ラブコップキャンペーン」に取り組み、地域委員会中心に商品試食学習会や産地見学への参加をすすめ、商品活動は広がりました。また、身近な地域で気軽に参加できる生産者と組合員の交流企画を組合員委員の想いをたいせつにしなが7つのエリアで実施し、産直商品を通じて交流をすすめました。

生産者との交流

コップしがでは、産直産地との訪問交流を活発に行っています。田植えと稲刈り体験は、組合員親子と生産者が一緒になって、田植えと稲刈りの作業体験を通して、「食と農」を考え、県内産直米の消費につながる取り組みとなっています。また、子ども達が米づくりの苦労と農業を守ることの大切さを知る、食育体験の場として参加が広がっています。



田植え体験



トイレットペーパー工場見学

2. チーム・ひろば活動

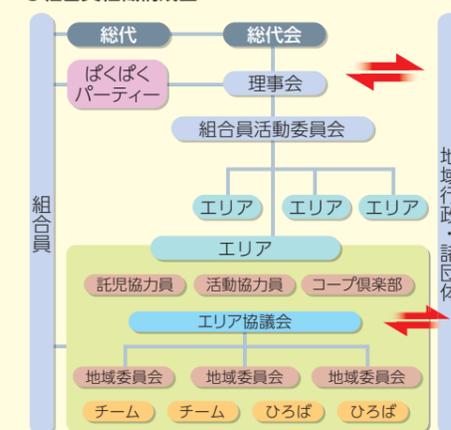
チーム活動は、組合員が、地域の中の様々な人たちと一緒に、自由に柔軟な発想に立ち、取り組むことのできる活動として、多様な活動が実施されました。2014年度は173チーム、1,413人の参加となりました。身近な人と人のつながりの活動に助成するという趣旨が利用者には浸透したことや、組合員の口コミ、商品お試しチームで参加の裾野が広がっています。

ひろば活動は、「商品」「環境」「福祉」「平和」「子育て」「消費者力」などくらしのテーマに沿って全体で91のひろばが実施され、のべ6,652人の参加がありました。多様な視点で自主自発の活動として広がり、認知度も少しずつ高まってきています。

組合員による運営参加

組合員活動は県内7つの「エリア協議会」を中心に、行政区単位を基本として設置されている27の「地域委員会」が各地域で様々な活動に取り組んでいます。コップ商品の学習会や産地見学など、学び知り、知らせる交流の場づくりを行っています。また、個々の組合員は、学びの場コップ倶楽部やひろば活動・チーム活動など関心や興味がある活動・催しなどに参加しています

●組合員組織構成図



3. 平和を願う活動

戦争の歴史や体験を学び語り継ぐ取り組み

組合員から寄せられた「平和募金」を生かし、8月5日～6日に行われた「2014ピースアクションinヒロシマ」に参加しました。参加者からは、「コップという繋がりを通じて広島の方々の話、各地の方々の戦争への想い聴くことが出来てよかったです」「伝えていくことの大切さを心から感じたと同時に、これからは伝え続けていくことの難しさも思いました。」など、被爆の実相や体験を、これからの世代に継承し、平和の大切さを伝えていく事について考える取り組みとなりました。

県内では「夏休み子どもと学ぶ 県内戦争遺跡めぐり」に取り組みました。今も県内に残る戦争の傷跡に触れ身近な地域から戦争と平和について考える機会となりました。また、滋賀県生協連と連携し8月6日原爆犠牲者慰霊・世界平和祈願法要（三井寺主催）への参加呼びかけを行いました。平和の想いを込めた短冊169枚が寄せられ風船に付けて放ちました。



2014ピースアクションinヒロシマ



夏休み子どもと学ぶ 県内戦争遺跡めぐり



三井寺原爆慰霊法要

ぱくぱくパーティ

「ぱくぱくパーティ」は、生協が無料でお届けする商品を試食しながら、ご近所、友達、家族などで気軽におしゃべりをしていただく取り組みです。ぱくぱくパーティをきっかけとして人と人とのつながりが広がること、おしゃべりの内容をぱくぱくメモとして出してもらい、組合員のくらしの背景をや生協への想いを知ることを目的としています。2014年度は5,231ヶ所、16,543人が参加しました。



ぱくぱくメモワークショップ(理事会)



社会貢献の取り組み



震災学習会



震災を忘れない研修 in 宮城



震災を忘れない交流会 in コープしが



近江八幡市・見守り協定



彦根市・見守り協定

1. 東日本大震災復興支援の取り組み

毎月11日の週を震災の週と定め、震災を振り返る機会とすると共に、誰でも参加できる支援行動として募金活動を呼び掛け、年間で2,933,557円の募金が集まりました。

震災学習会「原発事故と放射能汚染に向き合って」「福島の子どもの現状」の開催や、役職員による「震災を忘れない研修in宮城」では、被災者から直に話をお聞きしました。復興状況を知る事で、「私にできることは何だろう」「震災を忘れない」など、考える機会となりました。また、「震災を忘れない交流会in コープしが」では、震災を忘れないため、聴くこと、語り合い語り継ぐことの大切さや、私たちの出来る支援についての意見交換を行いました。

安心して暮らせる福島を取り戻すお手伝いとして、福島市へ砂場で使う木の道具を2年間に亘って贈る取り組みもスタートしました。



生活再建支援制度署名

制度的支援の実現に向けて取り組んだ「被災者生活再建支援制度の拡充をもとめる国会請願署名」には、12,406筆が集まり、コープふくしまを通じ、宮城県生協連に提出しました。



福島市へ贈った「木コテ」

2. 地域の安全を守る取り組み

(1) 自治体と見守り協定の締結

コープしがは自治体と見守り協定の締結を進めています。2014年度は、近江八幡市と「近江八幡市高齢者安心見守り活動」、彦根市と「彦根市高齢者安心・安全ネットワーク」の協定を締結し、これまでに締結した米原市・草津市・長浜市・高島市を含め6市となりました。

協定では日常の配達などの業務を通して、異常を察知したときに情報を自治体などにつないでいきます。協定の有無にかかわらず、配達などを通じて見守り活動を行っています。

(2) 「認知症サポーター」養成講座の実施

長浜・草津・甲賀・大津・高島・彦根・東近江の7市でささえあいサポーターの研修を兼ねた「認知症のサポーター養成講座」と「ささえあいサポートの活動報告会」を開催しました。参加された方には認知症サポーターの証としてオレンジリングが進呈されました。

また、全役職員が「認知症サポーター」となるように、養成講座に継続して取り組んでおり、現在正規職員の77%が講座を修了しオレンジリングを取得しています。

3. 安全運転の取り組み

2011年9月、コープしが職員が運転する車両により人命を奪うという重大な事故を発生させてしまいました。2度とこのような事故を発生させない決意のもと「コープの車両は安全運転を実践している」と地域の皆様に認めてもらえるよう、全力で取り組みをすすめています。配送車両にはバックモニターを設置し、ドライブレコーダーも全車両に導入をすすめています。

●事故違反発生件数

年度	2011年度	2012年度	2013年	2014年度
発生件数	56	50	35	49

(1) 地域の交通安全に向けて「チャレンジ50」

地域の交通安全に寄与するために、安全運転強化月間に合わせ50日間(9/1～10/20)の「チャレンジ50」に役職員が取り組みました。この取り組みでは、各事業所で道路の清掃、通学の見守りなどで地域の交通安全を守るとともに、役職員の安全運転への意識の向上につないでいきました。

(2) 「飛び出し注意」看板の設置

地域の安全確認が必要な場所に、「飛び出し注意」の看板を設置してもらう取り組みを継続しています。これまでに約2,000枚が設置されており、2014年度も200枚の看板を組合員に無料提供しました。

4. 災害復興支援の取り組み

2014年8月、広島市内を中心に発生した豪雨による土砂災害は、局地的に甚大な被害をもたらしました。コープしがは、組織募金として1,000,000円を送金すると共に、組合員から寄せられた「広島豪雨・土砂災害募金」5,266,625円を贈りました。

5. 子どもたちの未来を守る国際的社会貢献の取り組み

(1) 書き損じハガキ回収キャンペーン

家庭に眠る有価物を活かす、NGOハンガー・フリー・ワールドが取り組む「書き損じハガキ回収キャンペーン」に参加し、4,414,299円分が寄せられました。この金額は、NGOの活動する4カ国の食糧、教育基盤の整備に活用されます。

(2) ユニセフ募金

ユニセフ募金では、お年玉募金などで4,666,147円が寄せられました。この募金は、(公財)日本ユニセフ協会へ、「一般募金」、「エボラ出血熱緊急募金」、「ミャンマー指定募金」に分けて送金を行いました。



「チャレンジ50」カーブミラーの清掃



「飛び出し注意」看板



ユニセフからの感謝状



2020年ビジョンの実現に向けて

1993年、コープしがは、「より多くの県民の参加による協同の力で、組合員の暮らしと県民の暮らしの総合的な向上」を目指して発足しました。今までの歩みに込められた想いを大切にして、未来につながる協同ある消費者市民社会の実現に向け、生活協同組合の役割を發揮していくため2020年ビジョンを策定し事業をすすめています。

私たちは人と人がつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる新しい社会の実現をめざします

2020年には、滋賀県民の誰もが参加できる生活協同組合として、事業を進化発展させ、県民の過半数が利用する組織に成長することをめざします。

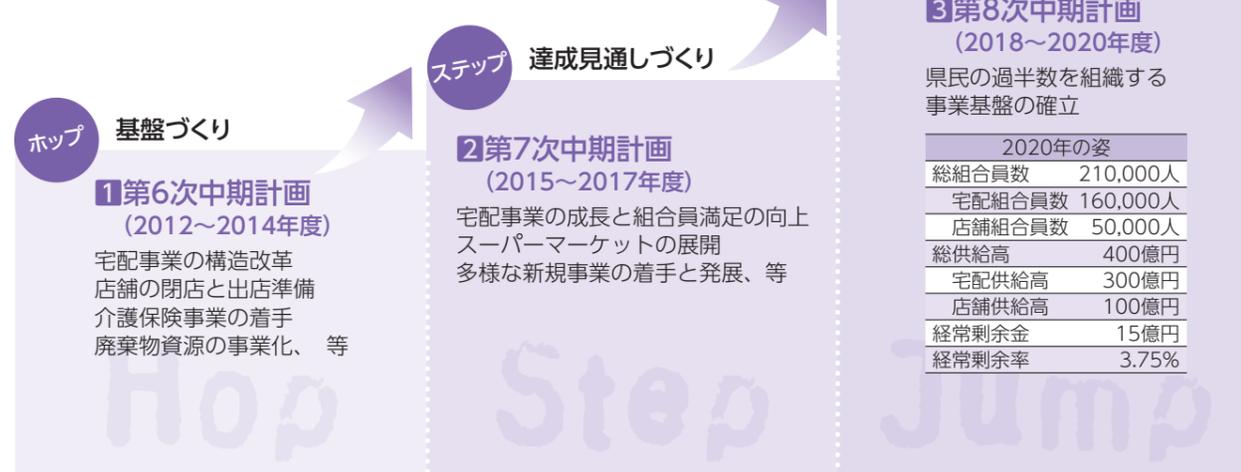
2020年ビジョンを実現するための5つのアクションプランと中期計画



3か年中期計画の設定

2020年ビジョンの実現に向けて3段階の中期計画を設定し、4つの重点課題の強化を図ります。

- 宅配事業をさらに県民に広げていきます。
- 身近で毎日のくらしを賄う店舗事業を広げていきます。
- 地域の安心なくらしを支える福祉事業を展開していきます。
- 滋賀の環境に貢献する事業や活動をすすめています。



第7次中期計画(2015～2017年度)

1. 骨子

(1) これからの社会情勢に向けて、コープしがが大切にしているテーマ

- ①「持続可能な社会システムづくり」への役割を果たしていきます。
- ②「急速にすすむ少子高齢化社会」に向けた準備を積極的にすすめています。

(2) 第7次中期計画の2つの基本視点

- ①事業を福祉的視点で見直していきます。
- ②地域力の活用視点から、地域の労働力、行政や諸団体、事業者などと連携していきます。

アクション 1 ふだんの暮らしへの役立ち

1) 宅配事業

【めざすもの】

- ①組合員一人ひとりの満足度の向上と利用を高めます。
- ②商品やサービスの充実により、一人当たりの利用点数と世帯利用高の維持向上をめざします。
- ③毎年1万人以上の組合員を新たに迎え入れます。
- ④効率的な配送と地域に適した配送形態の実施により、収益性をより高めます。

2) 店舗事業

【めざすもの】

- ①店舗事業の経営改善をはかり、独立採算をめざします。
- ②多くの組合員が生協店舗を利用できるよう、店舗のサービスの強化、スーパーマーケットの多店舗展開をめざします。
- ③店舗はお買い物と組合員の集う場として、各地域の組合員活動の拠点にします。

アクション 2 地域社会づくりへの参加

【めざすもの】

- ①ささえあいサポート、宅配事業や配達サポートなど総合力で地域生活支援サービスを支えます。
- ②介護保険事業のサービスの質を向上させるとともに、介護保険事業所を積極的に複数展開します。
- ③生協の事業・活動のインフラを活用して、地域社会の変化から生まれる新たなニーズに応えます。
- ④大規模災害時の食の調達と事業継続を図り、災害時物資協定や災害訓練等、地域行政との連携を強めます。

アクション 3 世界と日本社会への貢献

【めざすもの】

- ①環境政策にもとづき、低炭素・自然共生・循環型社会の実現に向けて、省エネの推進、廃棄物の削減、環境保全等の取り組みを強めます。
- ②世界的な食糧事情を見据え、県内のJAや農家との連携を図り、食料自給率向上に貢献します。

アクション 4 元気な組織づくりと健全な経営づくり

【めざすもの】

- ①地域と結びついた元気な組合員活動を推進し、多様な参加を広げるとともに、活動の拠点として集まれる「場づくり」に取り組み、機関運営・組織運営への参加を高めます。
- ②職員の満足度を高め、より能力を發揮できるよう制度や運用の改善をすすめます。
- ③更なる事業の成長のための投資やサービス向上が可能となる経営構造を確立します。
- ④環境変化に対応できる強い財務構造の確立を目指します。



ルールに基づいた運営

1. コーポレートガバナンス



第34回通常総代会(2014年)

機関運営

コープしがの機関は、組合員の代表である総代会が方針や事業計画などを決定する総代会、総代会で選任された理事会と組合を総理し業務執行する代表理事、その決定や業務執行を監視する監事で運営を行っています。

理事会

理事会は毎月開催し、総代会で承認された方針の意思決定と代表理事や常勤理事会の日常業務の執行状況を確認しています。

組合員の運営参加

3つの運営参加

組合員は、宅配事業や店舗などの利用を通じて参加する「事業活動ライン」、地域委員会やエリア活動を通じて参加する「組織運営活動ライン」、そして「総代」として懇談会や総代会議案検討会議などを通じて参加する「機関運営活動ライン」の3つで生協に運営参加します。

総代の活動

総代は、総代会に参加しコープしがの方針を決定します。そのために総代会に向けての年3回の会議で、活動参加や利用参加を通じての組合員のくらしやニーズなどの意見を述べます。

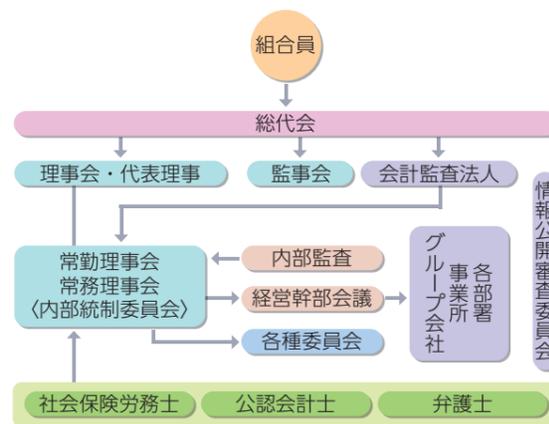


年度末総代懇談会

監査

総代会から負託を受け理事会の業務執行を監査する「監事監査」、会計監査法人による「外部監査」、内部監査担当による「内部監査」の三様監査でチェックしています。

●コーポレートガバナンス体制



2. 内部統制基本方針に基づく運営

コンプライアンス

「コープしがで働く私たち一人ひとりが、法令及び規則、ルール、社会的規範を守り、すべての利害関係者、とりわけ組合員のくらしに役立つために行動し、その使命を果たすために全力を尽くす」ことを誓い、コンプライアンス基本方針・自主行動基準を定めています。実践に向けて毎年全職員が学習を行い、セルフチェックで達成状況の確認を行っています。

個人情報保護

個人情報保護法にもとづき16万人組合員データをセキュリティにより適切に管理しています。個人情報は規定やルールを明確にし、適正に取得・利用・管理・廃棄の手順を定め、職員教育を徹底しています。取引先や委託業者には覚書を交わし、安全管理の義務付けと定期的な点検を行っています。

リスクマネジメント

コープしがの全業務に係わるリスクを洗い出し、個々に分析・評価を行い、リスク管理表を作成し発生防止に努めています。全職員にリスク教育を行い、発生防止対策や発生時と収束後の対応をルール化し徹底しています。

危機管理

重大なリスクが発生した場合、速やかに対応するため危機管理規定や危機対応マニュアルを定め、訓練等を行っています。地震や台風など大規模災害の対策は、震災対策マニュアルやBCP（事業継続計画）を整備し、組合員や地域への事業者責任を果たす準備や対策を講じています。

組合員の声に基づいた運営

コミュニケーション委員会

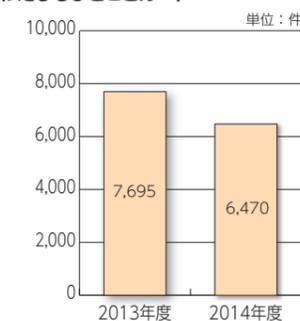
コープしがでは、組合員の意見・要望を聞く仕組みとして宅配などの事業を通じて職員が直接お聞きする他、「わたしもひとことカード」「ぱくぱくメモ」や組合員コールセンターに寄せられる声などがあります。「コミュニケーション委員会」では、これらのご意見や要望、願いについて検討し、事業や組織運営に活かしていくようにすすめています。

組合員の声等の件数

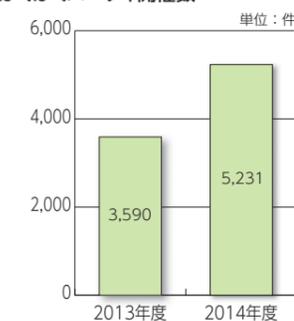
●組合員コールセンター



●わたしもひとことカード



●ぱくぱくパーティ開催数



資料

コミュニケーション委員会での検討事例

<喜ばれた事例>

■配達中に高齢者が自転車で転倒され意識を失っているところを通りかかった職員が、救急車の手配や交通整理などして寄り添うということがありました。ご家族が来られ無事意識も回復し、事なきを得ました。

■夕食サポートの配達時に、利用者の方が自宅で倒れていることがありました。担当者が異常に気付いて、対応手順に沿って連絡を行い、救急車で運ばれました。入院されましたが、意識はしっかりとされているということでした。

<組合員コールセンター対話事例>

■「来週の配達時は注文書とカタログ一式を届けたいです。来週留守になるので、注文もしていません。カタログなどが置いていて、家が留守とわかれると何がかわからないので。」と電話がありましたので対応をお願いします。

▶毎週の商品お届けや、カタログなどをお届けすることが当たり前になっていますが、中には今回のように留守がわかることを大変気にされる方もおられます。組合員対応は、相手の不安や要望を知ったうえで、適切な対応に心がけます。

<事例研究>センターなどで

■「商品不足の電話をしたところ、すぐ担当さんが持ってきてくださいました。とても良い担当さんなので、お礼を伝えてほしい。」とコールセンターに電話がありました。

▶組合員にとって生協の代表は担当者です。生協が組合員のくらしに大きくかかわっていることを念頭に置き、組合員の想いをしっかりお聞きしたうえで、何を望まれているのかを受け止め、組合員対応を行います。

<わたしもひとことカードの事例>

■商品が届く箱に貼ってあるラベルが、両角がオレンジ色になってはがしやすくなり助かっています。

▶組合員の声に基づいて改善された事例です。今後も、このように組合員に喜んでもらえる改善の事例を増やしていくようにします。





組合員とともに歩むコープしが 働きがいのある職場づくり



新人職員入協式



コープしが職員像の実践



人事評価者研修

◆コープしが職員像

すべての職員のあるべき姿を「コープしが職員像」として掲げ、「三つの心得」と「行動綱領五箇条」を常に意識し、コープしが職員としての自覚をもって業務を行っています。

◆多様な雇用形態

正規職員、準職員、嘱託職員・定時職員・アルバイト職員など様々な雇用形態で約800名が働いており、特に組合員宅へ商品配達する「組合員担当者」の約42%はパート職員が担っています。

また「共生社会の実現」に向けて、能力や適性に配慮した障がい者雇用に取り組んでいます。2015年4月現在の障がい者雇用率は2.05%となっています。

◆人事諸制度による能力開発

人事諸制度は、「一人ひとりの職員に求める行動を示し、それに向けて頑張っている職員が正しく評価されること」をコンセプトとして、正規職員・非正規職員ともに制度運用しています。目標による仕事の管理、年3回の上司との面接、業務プロセスも含めた評価に基づく処遇への反映などを行い、教育研修と連動させ人づくりに活かしています。

◆人材育成方針に基づく教育研修

人材育成方針では、職員が組合員のくらしづくりに貢献する使命を全うするために、「コープしが職員像」から一人ひとりの職員に求められる行動を示し、それらの行動を実践するために必要な教育研修を組み立てています。

職員それぞれのキャリアステージに応じて意欲と能力をバランスよく伸ばし、また自らの成長意欲を「通信教育助成制度」「資格取得奨励制度」「自主研修活動支援制度」などでサポートしています。

コープしが職員像

コープしがの職員は一人ひとりが自立し集団の力で前進します

三つの心得

1. さわやかな笑顔で元気良く挨拶します
2. 約束や職場のルールは必ず守ります
3. 誰にでも正直、親切、丁寧、素直に接します

行動綱領五箇条

1. 人の傷みがわかる心もち、地域社会に奉仕します
2. 常にコスト意識もち、ムダ・ムラ・ムリをなくします
3. いかなる仕事も情熱をもって最後までやり遂げます
4. 豊富な知識を身につけるため、努力を惜しみません
5. 健全な精神、健康な身体を維持します

◆安全で安心して働ける職場環境の実現

労務担当役員と各職場代表で構成する「中央労働安全衛生委員会」と各職場ごとに「職場労働安全衛生委員会」を設け、労働災害の発生防止や5Sの推進、健康増進活動、腰痛体操や腰痛検診の実施、全事業所に設置するAED研修、消防訓練などに取り組んでいます。

働きやすい職場とするために「ハラスメントに関する基本方針」を掲げセクシャルハラスメントやパワーハラスメント等の行為防止の啓発、「ヘルプライン相談窓口」や「メンタルヘルス相談窓口」を設けて違反行為の防止や早期発見、不安解消に外部専門機関などと連携しながら取り組んでいます。

労災事故件数(件)

年度	合計
2011年度	31
2012年度	35
2013年度	26
2014年度	35

※スリキズなどの小さなケガも含んでいます

ヘルプライン対応件数(件)

年度	合計
2011年度	4
2012年度	4
2013年度	4
2014年度	3

※相談内容は、ほとんどが職場の人間関係や上司への不満等で、重要な不法行為等の通報はありません。

◆素直に感謝しあう職場風土づくり

コープしが職員の行動が、組合員や地域の方から「良かった、ありがとう」と感じていただいた事例を共有するため表彰制度を設け、個人のモラル向上や仕事のレベルアップなど、組織の活性化や職場風土づくりにつなげています。

◆互助会制度

福利厚生増進と親睦、交流などよりよい人間関係を形成するため互助会制度を設け、厚生旅行やサークル活動などへの援助や、文化・健康増進企画の補助を行っています。

◆働きやすい職場づくりを労働組合とともに

労働組合は正規職員・パート職員によるユニオンショップの組織形態をとっています。コープしがでは労働者の心と体の健康や権利を守り民主的な職場運営を図るため、労働組合と協力関係を築いています。

◆部内報「湖～ぶる」の活用

「理念や方針、政策の共有」「運営課題の可視化」「事例の共有と事例を通じての学び」をコンセプトとして役員対象として毎月発行しています。組合員や地域の方への対応事例の共有は、職員の仕事のありかたを考えるきっかけや仕事のやりがいにつながっています。



腰痛予防



消防訓練



感謝状贈呈



互助会活動「ボーリング大会」



「湖～ぶる」



■宅配事業

安全・安心な商品を便利にお届け

宅配事業は、県内全域に配置している9か所の宅配事業センターから13万人の組合員宅へ毎週配達しています。



東近江センター

宅配事業は、組合員から注文いただいた商品を毎週決まった曜日・時間に指定され場所にお届けします。注文は、注文用紙、電話、ファクシミリ、インターネットのいずれでも受け付けます。また、商品の受け取りは、共同購入、個配、ステーションから選んでいただけます。

万一、お留守の場合でも「セーフティカバー」や「安心シール」で安全に商品をお届けします。

配達時は、組合員との対話を大切に、安心して利用いただけるように、商品の満足や不具合について聴く取り組みを行っています。また組合員の満足度アンケートも毎年実施しています。

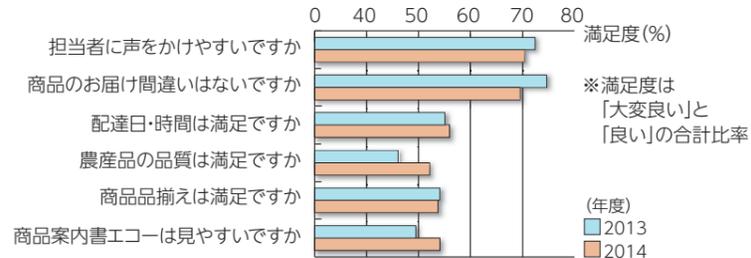


安心シール



セーフティカバー

● 2014年度組合員満足度調査結果 (抜粋)



宅配事業でくらしをサポート

赤ちゃんサポート

満1歳までの赤ちゃんをお持ちのお母さんにうれしいサポート商品を、毎月偶数週に無料で1点お届けし、子育てをサポートしています。延べ登録者は9,000人を超え、約3,000人が利用しています。また、コープしがホームページから、子育てに関する組合員活動などの情報を提供しています。

めくもり割引

個配は配達手数料が必要ですが、3歳未満のお子さんをお持ちの組合員、65歳以上や障がいをお持ちの組合員の手数を割引しています。現在のめくもり割引のご利用者は28,600人となっています。

個配メールサービス

離れて暮らすご家族に代わって、注文された商品をご家族にお届けします。商品お届け時にはお届け結果(状況)をメールでお知らせしています。

わくわく便

離れて暮らす子どもさんに生協商品を届けたい。そんな組合員の声に応じて、生協が商品お届けするサービスです。現在2,611人が登録されています。



■店舗事業

2015年2月27日にコープぜぜ店がグランドオープン

毎日のお買い物を楽しんでいただけるよう、人に優しく、環境にやさしく、人と人とのふれあいを大切にします。

コープぜぜ店は、ご利用いただく組合員に豊で新しい食生活を提案します。新しい食べ方、おいしい食べ方の提案、商品・売場のこだわりを継続して伝えます。また、普段の商品、お買い得品、こだわり品の品揃えを充実させ、選ぶ楽しさを広げます。

お届け便

高齢者や買い物が困難な人の方にご利用いただけるお届け便(買い物代行サービス・お買上配達サービス)を行っています。

注文と配達エリアは、本宮・竜が丘・鶴の里・池の里・湖城が丘・秋葉台・朝日ヶ丘・石場・松本・打出浜・馬場です。



買い物代行サービス



コープぜぜ全景



コープぜぜ店内

■共済事業

信頼と安心をいつも感じてもらえる家族みんなの必要な保障を



手頃な掛金でありながら、しっかりと組合員の家族みんなの保障の中心にありたい。

いざというときに、役に立って「ありがとう」の声を…。

CO・OP共済は組合員の困りごとに寄り添った活動を大切にすすめています。新しく組合員になった方に、最初からCO・OP共済の良さを説明できるよう、職員教育に取り組んでいます。

「おかわりございませんか?」「ご請求忘れありませんか?」など丁寧な対応をすすめ信頼と安心をいつも感じていただけるCO・OP共済をめざしています。

共済保有件数(件)

年度	たすけあい	あいぶらす	ずっとあい	合計
2012年度	76,168	14,695	2,004	92,867
2013年度	75,140	15,500	2,645	93,285
2014年度	74,479	16,331	3,219	94,029

たすけあい共済金支払状況 (千円)

年度	件数	支払金額
2012年度	15,315	567,519
2013年度	15,273	552,042
2014年度	15,575	582,880

あいぶらす共済金支払状況 (千円)

年度	件数	支払金額
2012年度	961	129,712
2013年度	1,154	137,633
2014年度	1,273	175,405

ずっとあい共済金支払状況 (千円)

年度	件数	支払金額
2012年度	111	6,290
2013年度	231	13,286
2014年度	320	19,549

資料

こんな声を頂いています

二回の入院・手術に…

昨年の入院・手術また今年の手術と大変お世話になりました。安心して入院生活を送ることができました。大変心強いです。

初めて共済金を請求しましたが…

初めて共済金を請求しましたが、電話対応もよく、わかりやすかったですし、支払がすぐ早くて、ありがたかったです。ありがとうございました。

子どもにとっていいプランですね…

自分たちが気をつけていても、子どもはいつ、いかなる時にどんなことがおこるかわからないので、保険に入っておいて損はないし、安心です。特にCO・OP共済は子どもにとっていいプランで充実しているので安心です。



■福祉事業

人のつながりの中で、よりよい暮らしを ともにつくる福祉をめざして

コープしがは、福祉を広く「一人ひとりの人が社会的なつながりの中で、よりよい暮らしをともにつくること」としてとらえ、組合員、地域の方々とともに「暮らしを創造する福祉」をめざしています。



ケアサポートセンターぽこ



ぽこは自前の厨房で食事づくり

誰もが通る“老い”に向かいあう介護保険事業の取り組み

デイサービス、訪問介護、ケアプラン作成を通じて、ご高齢者の在宅生活を支えるケアサービスに取り組んでいます。2階には組合員、地域住民の方にご利用いただける会議室も設け、地域との交流を大事にした福祉施設となることをめざしています。

ぽこのケアでは、「食生活」と「生活リハビリ」を大事にしています。特にデイサービスでは厨房を設け、生協の食材を使った手作りのごはんを提供しています。また、デイご利用者みんなで楽しみながら身体を動かす「ぽこ体操」、外の空気に触れ、自然に身体を動かす機会になる四季折々のお出かけ企画など、「生活リハビリ」に取り組んでいます。



ささえあいサポートの様子



くらしの相互扶助制度「ささえあいサポート」

組合員同士がお互いさまの気持ちでくらしを支えあうサポート制度です。高齢者宅での家事援助の他、ペットのお世話、庭の手入れ、子どもの見守り等、さまざまなご依頼がよせられています。2014年度は3,928件、6,134時間のご利用がありました。

こんなご利用もあります

■パソコンで年賀状づくりのお手伝い

70代女性のご依頼。宛名印刷やデジタル画像をつかった年賀状づくりを教えてくださいというご要望にお応えしました。

■共働きママさんの応援

40歳代女性の方、お仕事が忙しく子育て中のお母さん。仕事に追われて家の掃除ができてないストレスで困っているところをサポートさせていただきました。



ふらっとプレイス

地域の交流の場「ゆめふうせん」

「ゆめふうせん」は組合員や地域の方々の会議や学習の場として、貸室事業を行っています。また誰でも気軽に立ち寄れる屋根付き公園「ふらっとプレイス」は、多くの親子にご利用いただいています。

ふくし情報電話の取り組み



くらしの困りごとを傾聴する「ふくし情報電話」を設けています。「ちょっと知りたい」から「とても困った」ことまで。介護や認知症のこと、子どもを一時保育してくれるところ、不登校や学校生活の問題、心の悩み その他どんなことでも、その方に役立つ情報提供や相談窓口への取りつなぎをしています。

■夕食サポート事業

食生活の困りごとをサポートする 「夕食サポート事業・つながり」

夕食サポート事業は、高齢、一人暮らし、共働き、育児などで、毎日の夕食づくりに困っておられる組合員に、栄養バランスを考えた夕食弁当をお届けしています。

夕食サポートの特徴

- 1 管理栄養士が監修した5日間の栄養バランス考えた体に優しい日替わりの献立です。
- 2 旬の野菜や魚、肉などを丁寧に調理し、彩り楽しく手作りの味をお届けします。
- 3 コープしが食品添加物自主基準に沿った原材料と、衛生管理の行き届いた施設で調理しています。
- 4 お弁当の配達は、夕食サポーター（組合員）が笑顔とともに手渡しでお届けします。
- 5 毎日のお弁当のお届けの際、安否確認も行っています。



6種おかず(6種類のおかずコース)

和・洋・中の豊富な献立で、毎日違った6種類のおかずをお届けします。おかず1食当りの平均カロリー約450kcal、塩分約3g。

こんなことがありました

夕食サポート利用者のところに配達に向ったところ、前日のお弁当がそのまま残っていました。夕食サポーターが異常を感じて、緊急連絡先に電話を掛け、ご親族の方が駆けつけられると、ご利用者さんが家の中で倒れていました。救急車で病院に運ばれましたが大事には至らず、ありがとうございましたとお礼をいただきました。



お弁当は夕食サポーターがお届け

■サービス事業

くらしを便利に、快適にする「サービス事業」

安心できる商品を提供したり、事業者の紹介を行って、くらしの便利や快適を広げていきます。

- チケット
- イトマンスイミングスクール
- 自動車教習所
- 車検
- ピアノ調律・修理
- ハウジング
- ふとん打ち直し・丸洗い
- 不要品の買取
- ハウスクリーニング
- レンタルモップ
- 浄水器
- お得な提携店(洋服の青山、紳士服はるやま、眼鏡市場)

こんな特徴があります

ハウジング

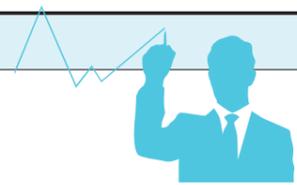
ハウジング事業は、提携業者と共同して、エネルギーの節減につながる太陽光発電、遮熱効果で節電・省エネ対策効果のある屋根・外壁塗料、節水型トイレ・バス等の提案を行っています。

ふとん打ち直し・丸洗い

古くなった布団を新品のように生まれ変わらせる「ふとんの打ち直し」や「丸洗い」をお勧めしています。資源の有効活用につながっています。

不要品の買取

提携業者と共同して、CD、服、ブランド商品など不用になったものを買取り、必要な方に販売する取り組みを行っています。提携業者は、以前からフィリピンの子どもたちに洋服の寄付をするチャリティー活動も行っています。



コープしがの概要と経営状況

コープしがが発足した1993年の組合員数は、74,900人でしたが、2014年度末には159,375人、組織率28%となり、県内全域に広がる組織へと発展しました。今後さらに、コープしがは滋賀の生協として、事業を通じて組合員だけでなく県民のくらしにも貢献し、消費者の生活の向上をめざし活動をすすめていきます。

コープしがの概要

(2015年3月20日現在)

- 名称 生活協同組合コープしが
- 設立 1993年3月21日
滋賀県内4生協
(大津生協・湖南生協・東部生協・北部生協)
が合併して発足。
- 本部 滋賀県野洲市富波甲972番地
- 理事長 西山 実
- 専務理事 白石 一夫
- 組合員数 15万9,375人
- 加入率 28.7% (滋賀県555,583世帯)
- 出資金 102億8,243万円
- 供給高 270億0,414万円
(内訳) 宅配事業 259億8,371万円
店舗事業 7億7,786万円
夕食宅配 2億4,257万円
- 職員数 正規職員 271人
嘱託職員 10人
定時職員 460人
※定時職員に準職員、アルバイト含む

市町別加入率

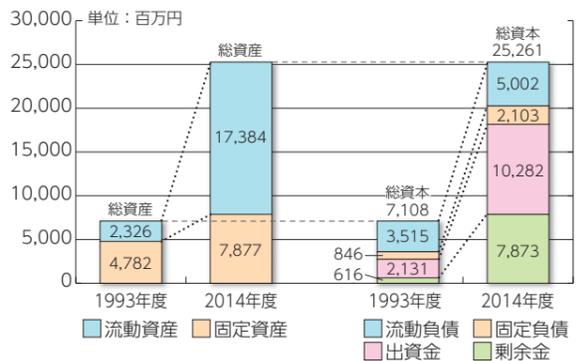
(2015年3月現在)

市町名	組合員数	世帯数	加入率(%)
大津市	47,170	142,615	33.1%
彦根市	12,616	46,583	27.1%
長浜市	13,523	44,514	30.4%
近江八幡市	7,856	31,138	25.2%
草津市	11,629	62,922	18.5%
守山市	7,977	29,006	27.5%
栗東市	6,287	24,713	25.4%
甲賀市	9,400	32,286	29.1%
野洲市	5,586	18,413	30.3%
湖南市	5,018	21,878	22.9%
高島市	7,001	19,647	35.6%
東近江市	11,944	40,668	29.4%
米原市	4,649	13,577	34.2%
日野町	2,373	8,365	28.4%
竜王町	1,310	4,302	30.5%
愛荘町	2,357	7,208	32.7%
豊郷町	665	3,035	21.9%
甲良町	632	2,262	27.9%
多賀町	999	2,451	40.8%
総数	158,992	555,583	28.6%

※県外在住組合員を除く

経営状況

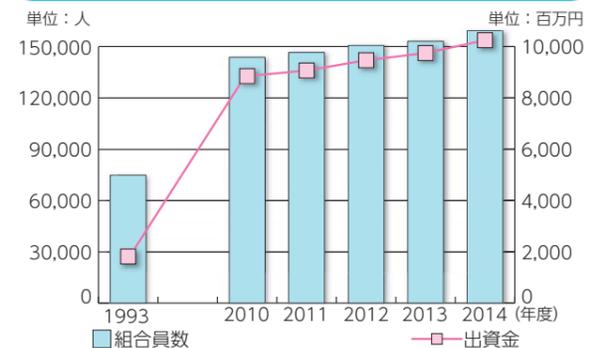
1993年度(コープしがが発足時)と2014年度の比較



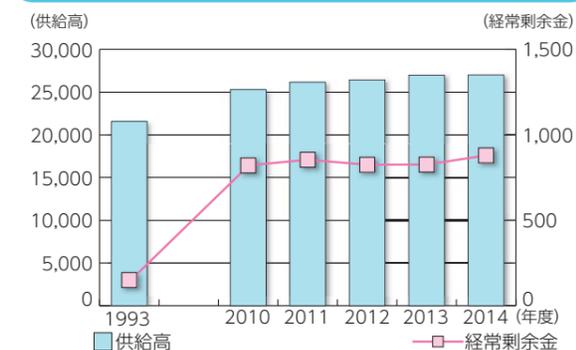
年度	経常剰余率 (%)	総資本回転率 (回/年)	流動比率 (%)	固定比率 (%)	自己資本比率 (%)
1993	0.69	3.0	66.2	174.1	38.6
2014	3.22	1.1	347.5	43.4	71.9

経常剰余率=経常剰余金÷供給高
 総資本回転率=売上高÷総資本
 流動比率=流動資産÷流動負債
 固定比率=固定資産÷自己資本×100
 自己資本比率=自己資本÷総資産

組合員数と出資金



供給高と経常剰余金



コープしがの事業所・事務所一覧

本部・事務所・その他施設

- 本部 野洲市富波甲972 TEL 077-586-1112(代表)
- 青果産直センター 栗東市荒張1420-1
- 福祉ネットワークセンターゆめふうせん 大津市真野5-33-25
- 草津事務所 草津市西草津2丁目1-1
- ケアサポートセンターぼこ 大津市柳川2丁目11-25

店舗

- コープゼゼ店 大津市竜が丘1-1

宅配事業センター

- 南草津センター 草津市笠山5丁目3-50
- 北大津センター 大津市真野5-33-25
- 草津センター 草津市上寺町カスリ281-1
- 中央大津センター 大津市国分2-226-22
- 甲南センター 甲賀市甲南町市原303-6
- 東近江センター 東近江市五箇荘清水鼻町153-6
- 長浜センター 長浜市西上坂町1020-1
- 彦根センター 彦根市竹ヶ鼻町224-1
- 高島センター 高島市新旭町新庄799

子会社・グループ会社

- 株式会社タクス 野洲市富波甲977
- 株式会社コープシステムサービス 栗東市荒張1420-1
- 株式会社シガフードプロダクツ 甲賀市甲南町寺庄330
- 株式会社滋賀有機ネットワーク 栗東市荒張1420-1



コープしがのグループ会社

コープしがのグループ会社は、組合員の多様なくらしのニーズに応えるため、法規制等により生協での事業が制限されている分野や、農業生産者との協同会社、畜肉や青果物の加工会社など専門的な事業分野を担っています。

「コープしが子会社グループ会社経営指針」を策定して管理運営を行っており、グループ全体で経営会議を開催して、グループ・コーポレートガバナンスに責任を持った運営を行っています。



(株)シガフードプロダクツ

株式会社タクス	組合員のくらし全般をサポートするために、生協では扱えない事業分野を担っています(損害保険・生命保険、旅行、宅地建物取引など)。
株式会社コープシステムサービス	物流に関する専門的なノウハウにより、適切な物流管理を担っています(倉庫・保管庫の管理、物流センター管理運営、物流資材の調達など)
株式会社シガフードプロダクツ	精肉の生産、流通及び加工までを一元管理し、安全・安心・良質な肉を適正価格で安定供給する(牛豚肉のパック加工、畜産加工品の販売など)
株式会社滋賀有機ネットワーク	県内での産直農産物の産地づくり推進と、農産品の流通を担う(穀類・野菜類・果物類の生産と加工。農作業及び農業経営の受託など)

環境編

食品編

組合員活動編

理念・運営体制編

職場づくり編

コープしがの事業編



生活協同組合コープしが

<http://www.pak2.com/>



- 用紙:適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ:大豆油インキを含む植物油インキ
- 印刷:有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造、廃棄に発生するCO₂をカーボンオフセット済
- CO₂排出量:361.8g/部